

2023年11月22日  
日本郵便株式会社

## 特殊切手「自然の記録シリーズ 第4集」の発行

日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 千田 哲也）は、科学的な観点で自然由来のものが描かれた写生画などを題材とした、特殊切手「自然の記録シリーズ 第4集」を発行します。

第4集は、動物の図譜を取り上げます。

## 1 発行する郵便切手の内容

名 称	自然の記録シリーズ 第4集
発 行 日	2024年1月24日（水） <sup>（注1）</sup>
種 類	84円郵便切手（シール式）
切 手 画 像	別紙のとおり
シ ー ト 構 成 ・ 意 匠	 <p>(1) アナグマ (2) シカ (3) ウサギ (4) イヌ (5) キリン (6) ヤマアラシ (7) サル (8) ネコ (9) ロバ (10) テン 余白：クジラ</p> <p>西尾市岩瀬文庫蔵『本草図説』（部分）</p>
売 価	840円（シート単位で販売します。）
小 切 寸 法	(1)～(4)、(6)～(10) 縦30.0mm×横25.5mm (5) 縦37.0mm×横25.5mm
印 面 寸 法	(1)～(4)、(6)～(10) 縦27.0mm×横22.5mm (5) 縦34.0mm×横22.5mm
シ ー ト 寸 法	縦86.0mm×横160.0mm
切 手 デ ザ イ ン	星山 理佳（切手デザイナー）
版 式 刷 色	オフセット6色
発 行 枚 数	2,000万枚（200万シート）
販 売 場 所	・全国の郵便局など <sup>（注2）</sup> ・郵便局のネットショップ内「切手・はがきストア」 <sup>（注3）</sup> ・銀座郵便局での通常払込みによる通信販売

## 2 発行する郵便切手のデザインについて

### <『本草図説』について>

幕末の本草家・高木春山（生年不詳～1852）による、魚・鳥・獣・虫・植物・鉱物・自然現象など、およそ全ての自然物を網羅した史上最大級の彩色博物図譜です。春山の確かな観察眼と画力からなる精密な写生画に、さまざまな書籍や春山自身の知見に基づいた解説を付しています。春山が志半ばで逝去したため未完ですが、195冊に及ぶ膨大な量とその質の高さは見る者を圧倒します。

### <切手の意匠名について>

#### (1) アナグマ

ヨーロッパからアジアにかけて広く分布しますが、この絵のアナグマは毛の色や模様から西洋産と見受けられ、同地の図鑑を模写したものと思われる。なお、日本産のアナグマは毛色や姿形がタヌキと似ているために昔からよく混同され、いわゆる「タヌキ汁」は、実は「アナグマ汁」であるともいわれています。

#### (2) シカ

シカは古くから、良質な肉や皮を活用するために狩猟の対象とされてきた一方で、その鳴き声が歌人の心をくすぐり、和歌などに詠み込まれてきました。また、神の使いとして信仰の対象ともされています。シカに限りませんが、この絵のような白い個体は特に稀少で、聖獣と見なされていました。

#### (3) ウサギ

「因幡の白兎」や「かちかち山」など、古くから説話に登場して親しまれている動物ですが、ウサギが日本で飼われはじめたのは明治時代以降といわれています。春山はこの絵のような灰色がかったウサギの他に、白色や褐色など、さまざまな毛色のウサギを描いており、人々が毛色の豊かさを楽しんでいたことがうかがえます。

#### (4) イヌ

日々の暮らしや狩猟のパートナーとして、最も古くから人間の生活に寄り添ってきました。世界各地に多様な品種がいます。江戸時代には博物学の広まりも相まってペットブームが巻き起こり、イヌは定番のペットとして愛され、専用の飼育書が出版されるほどでした。

#### (5) キリン

キリンが日本に渡来したのは明治時代以降で、このキリンの絵は幕府の蘭医・桂川甫周の「麒麟図」を描き写したものと推測されます。同図は漢籍や蘭書をもとに、中国の神獣（麒麟）と動物学上のキリンを同定して描かれており、この絵にも両者のイメージの混在が見受けられます。

#### (6) ヤマアラシ

体に長く鋭い針状の毛を備えています。日本には江戸時代中期にもたらされ、その珍しさから代表的な見世物になり、庶民に親しまれました。春山は安永元（1772）年に師の田村藍水（江戸時代の本草家・幕府医官）がヤマアラシを賜り、その護衛を命じられた際に実物を見て描いたといわれています。

#### (7) サル

描かれているのは茶褐色の毛で覆われ、顔などの皮膚が赤味を帯びた、日本の特産種であるニホンザルです。『本草図説』に記された解説文によると、「猿」という漢字を「サル」と読むのは誤りだそうで、「猿」はテナガザルを指し、「サル」は「猴」の漢字が使用されています。

#### (8) ネコ

イヌと同じく、古くから親しまれている動物です。日本にネコが渡来したのは、奈良時代に中国から書物運び込むとき、ネズミの害を防ぐために船に載せたことが最初だといわれています。また、描かれている三毛猫は、平安時代にはいたといわれています。

#### (9) ロバ

ウマに似ていますが小さく、耳が長いのでウサギウマとも呼ばれます。日本には明治時代以後に渡来しました。数日間水なしで過ごせる上に、枯草などの粗食にも耐えるため、体の大きさの割合に対して最も食物が少なく済む家畜とされています。

(10) テン

イタチに似ていますが、体が大きくがっしりしていて、とがった口と大きな耳が特徴です。描かれているのはホンドテンで、個体によって冬毛の色が異なり、黄色くなるのはキテン、褐色を帯びているのはステンと呼ばれます。描かれているのはキテンの一種で、鮮やかな黄色が目には美しいです。

(余白) クジラ

クジラはかつて魚類のひとつとして捉えられ、『本草図説』でも「水産之部」に分類されています。描かれているのはセミクジラで、その名は背びれがないために背中の中の曲線の美しさが際立つクジラ、「背美しくら（背が美しいクジラ）」に由来するといわれています。

3 その他

通信販売などの販売概要、郵趣のための記念押印サービスについては、弊社 Web サイトでお知らせします。

【注釈】

- (注1) 切手の販売は、発行日の午前9時からとなります。
- (注2) 一部の郵便局においては、お取り寄せとなる場合があります。  
売り切れる場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- (注3) 郵便局のネットショップ内「切手・はがきストア」への掲載は、2024年1月24日（水）の予定です。

以上

【お客さまのお問い合わせ先】

日本郵便株式会社  
お客様サービス相談センター  
<電話番号>  
0120-23-28-86（フリーダイヤル）  
携帯電話からご利用のお客さま  
0570-046-666（通話料はお客さま負担です）  
<ご案内時間>  
全日 8:00~21:00  
※おかけ間違いのないように注意してください